
毎年の行事

NARIMASA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

毎年の行事

【Nコード】

N3353R

【作者名】

NARIMASA

【あらすじ】

どこにでもいる女子高生の北原湊。彼女は幼馴染の牧原隆志に誕生日プレゼントと共に告白も贈ろうと考える。

私の名前は北原湊。どこにでもいる普通の女子高生。あまり悩みのなかった私だが、今はすごく悩んでいることがある。それは誰もが体験するであろう恋についてだ。相手はよくあるパターンと思われるかもしれないが私の幼馴染である。彼の名前は牧野隆志、幼いときから現在までいつも一緒だった。そんな彼をずっと好きだった。誰にも言えなかったけど、周囲の人達はおそらく知っているのだろう。

そんなこんなであつという間に月日が流れてすでに12月。もうしばらくすると隆志の誕生日がせまってくる。私は毎年手作りをし贈っており、毎年の行事になっていた。今年はマフラーを贈ると同時に今年こそ告白をしようと心に決めた。

マフラーを編んだことがないので母にやり方を教わった。それから時間を見つけてはマフラーを編んでいる。

「そこ違うわよ」

母は見えていられなくなったのか私からマフラーをとりあげようとする。それでも私は素直に渡そうとはしない。

「いいの。私が編むんだから」

確かに母からは教わっているが、自分で作らなければ意味がない。母も理解してくれたのか「頑張りなさい」と言っ夕飯の支度をした。

家で編むだけでは時間が足りないので放課後家庭科室を借りて編んでいる。そんな私を親友は、にやにやしながら私に話しかけてくる。

「本当に牧野君のことになると熱心よねー」

「うるさいなあ、邪魔するなら帰ってよ」

「もう怒らないでよ、それでも応援してるんだから」

「どうか」

私は怒ったように頬を膨らませる。彼女は私の編んでいるマフラーを見て再び話しかける。

「ほらここ、間違ってるよ」

「え？どこ？」

「ほらここ、ほら貸して」

彼女はマフラーを掴もうとしたが、私はそれよりもはやくマフラーを後ろに隠した。

「ダメ、私が編むんだから」

その言葉を聞いて彼女も納得したように椅子に座る。

「はいはい、まったく言い出したら聞かないんだから湊は」

「ごめん・・・」

「いいから、はやくでかして告白の言葉でも考えておきなよ」

「そ、そんなんじゃないわよ」

私は自分の顔が赤くなっているのに気付いた。それを知ってか彼女は先程よりもにやにやしている。彼女が応援してくれるのは嬉しいが、これ以上話していたら口では勝てないので黙々とマフラーを編んだ。

そして誕生日前日、私はプレゼントのマフラーを編み終えた。喜びもつかの間で大事なことを忘れていた。そう、告白の言葉だ。ど

うずればいいか分からず混乱したが、深呼吸して落ち着きベッドにもぐって考えた。が、私はそのまま寝てしまったのであった。

誕生日当日。私は朝から告白の言葉しか考えることができなかった。そして長かった時間もついに放課後になった。結局告白はありきたりでいいと決めてしまった。隆志と人気のいない所に行くとプレゼントを渡した。

「はい、これ」

「おお、ありがと」

隆志は嬉しそうに答えるとさっそく私の編んだマフラーを着けてくれた。そして私は告白しようと隆志の顔を見て口を開いた。

「隆志、私・・・あなたに言いたいことがあるの」

「何？」

いざ告白するとなると何も言えなくなるのだと感じた。でも逃げる訳にはいかない。私は心の中で深呼吸すると勇気を出して気持ちを伝えた。

「隆志のことが好きです。私と付き合ってください」

自分の気持ちを伝えると目をつぶってしまった。ゆっくりと開けていくとそこには優しく微笑む隆志の姿があった。そして私に返事を返してくれたのである。

たぶん皆にはこの後どうなったのかはわかると思う。告白は女の子にとって勇気が必要なことだろうけど、言わなければ想いは届かない。あなたもほんの少しの勇気を持って想いを届けてみてはどう

だろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3353r/>

毎年の行事

2011年10月8日19時58分発行